

利用者調査とサービス項目
を中心とした評価手法

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0014

所在地 東京都豊島区池袋2-23-23 白鳥ハイツ102号室

評価機関名 特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

認証評価機関番号

機構 07 - 177

電話番号 03-6906-5231

代表者氏名 理事長 島田久平

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		修了者番号
	①	小川登美子	H1202009
	②	吉野 良子	H0901098
	③	島田 久平	H0702042
	④		
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	共同生活援助(グループホーム)		
評価対象事業所名称	すてっぷ小中尾	指定番号	
現地調査をしたユニット名	すてっぷ小中尾、やまなみ、あすなる、フォレスト		
現地調査をしたユニットの 選定理由 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> ユニットの特徵 <input type="checkbox"/> 前回の評価で訪問していないユニット <input type="checkbox"/> 利用者調査結果 <input checked="" type="checkbox"/> その他(すべてのユニット聞き取り調査実施し見学した)		
事業所連絡先	〒	198-0001	
	所在地	東京都青梅市成木2丁目392番4号	
	Tel	0428-74-7377	
事業所代表者氏名	山本以文		
契約日	2018年	6月	18日
利用者調査票配付日(実施日)	2018年	9月	30日
利用者調査結果報告日	2018年	11月	15日
自己評価の調査票配付日	2018年	8月	28日
自己評価結果報告日	2018年	11月	15日
訪問調査日	2018年	11月	22日
評価合議日	2018年	12月	23日
コメント (利用者調査・事業評価の 工夫点、補助者・専門家等 の活用、第三者性確保の ための措置などを記入)	当ホームは、社会福祉法人友愛学園が設置運営するグループホームで、利用定員は4ユニットあわせて25人である。管理者は成人部の施設長が、サービス管理責任者は同じく成人部の副施設長が兼務している。第三者評価は今回が初めてで、成人部と同じ時期に評価を実施した。職員説明会では評価制度の趣旨や評価方法について丁寧に説明した。利用者調査にあたっては施設と事前に十分協議し、聞き取り調査を中心にアンケートも併用して行った。訪問調査は評価者3人で行い、サービス管理責任者と面談し、実施状況について説明を受け意見交換を行った。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者の一人ひとりをかけがえのない存在として大切にします。 2 利用者の人間としての個性、主体性、可能性を尊びます。 3 障害のある人たちに対するいかなる差別・虐待・人権侵害を許さず、人としての権利を擁護します。 4 障害のある人たちが社会活動に参画し、市民社会の一員として生活できるよう支援します。 5 利用者が希望する自立の実現に向けた支援をします。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者の願や思いに耳を傾け、理解し、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材。 2 業務の課題や気付きに対して迅速に対応し、業務マネジメント、タイムマネジメントを実践する人材。 3 日々の職務を通して、地域住民や地域社会に対して、障害者の権利擁護、共生社会に向けた取り組みを発信できる人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自らが率先して、ユニットや利用者の生活の質の向上に努め、利用者の自己実現、願いや思いに応えるべく、日々切磋琢磨することを期待する。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	利用者の状況に応じて、生活上の支援を行っている
タイトル①	利用者の特性に配慮し、コミュニケーションを大切にした実践に取り組んでいる	
内容①	<p>利用者の支援の必要度や希望する生活スタイルは、一人ひとり違うことを大切にしている。日常的な支援、健康管理、金銭管理をはじめ、食事提供や清掃等の生活面の支援まで多岐にわたって、個々の障がい特性を考慮した環境づくりに努めている。例えば、強度行動障害など個性の高いトラブルが生じた際には、トラブルになった経緯を利用者と向き合うことでさまざまな気づきを生み、理解が深まるよう努め解決につなげている。利用者と一緒に振り返って要因分析し、対応方法を考えていくことで利用者が生活力を身につけている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	複数回の体験入居を経験し、入居後は支援員等の加配でスムーズな利用開始に繋げている	
内容②	<p>ホームは住まいという機能面だけでなく、働く、遊ぶ、生活するという総合的な面も持っており、利用者本人がホームで利用した状態をよりよくイメージできるよう複数回の体験入居を実施するなど丁寧に対応している。体験中は利用者の生活リズム・パターンを把握している。入居後は入居直後の不安やストレスの軽減に配慮し支援員を加配している。利用者が普通の生活を送るための支援計画を作成し、支援員等は体験入居では見られなかった自傷、他害、情緒不安定等が出現の都度、また毎月の面談を実施している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	利用者保護(2)	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル③	虐待防止・権利擁護委員会を開催し、職員の意識向上を図り、虐待防止に取り組んでいる	
内容③	<p>虐待防止に関する内部研修の実施、全職員を対象にした自己チェックシートを年に1回は実施している。その結果を分析し対応策を講じている。また、ホームでは、友愛学園倫理綱領、障害者虐待防止マニュアルに基づき、会議等で利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動や虐待が行われぬように日常的に振り返りを行うなどミニ研修も行っている。虐待防止マニュアルには虐待対応組織が明示されており、虐待事例には関係機関と連携し必要な対応と防止対策をとる体制を整えている。</p>	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	利用者が自立した生活が送れるよう歩調を合わせた支援向上に努めている
	内容	一人ひとりの利用者丁寧に合わせた支援に心がけており、利用者等がこれまで暮らしてきた経過などを大切にしたり関わりをしている。将来、一人暮らしを模索中の利用者には、自立した生活を目的とした支援を行っている。例えば、金銭を使い過ぎる利用者には、預金額やこのまま使い続けるとどうなるのか等、使い方を納得できるように説明している。ホームでは、同じサービスを提供することが平等とは考えていない。障がい特性によってサービス提供方法を変えることがある。障がい特性の歩調に合わせた支援により本人の自信にもつながっているケースもある。
2	タイトル	普段の生活を送りながらほっとする安らぎを感じられる生活の場を提供している
	内容	ホームは、利用者がほっとできる場所・居心地の良い自分らしく暮らせる生活の場を心がけている。ユニットのリビングには、食卓と椅子、ソファ、テレビ等が用意されて家庭的な落ち着いた住環境を提供している。共同生活のルールを守ってもらう中で、自分のペースで出来ることは自分で行うよう支援している。リビングなどの清掃は利用者が不在時に職員が行う等、清潔性や快適さに留意している。晴天時や清掃の際には換気をしたり、リネン類の対応も利用者にも働きかけている。平日の活動後や休日には余暇活動や自分らしい生活実現に向けた支援をしている。
3	タイトル	利用者の「働く」「遊ぶ」「生活する」の確立、イメージしている生活の実現にむけた個別性の高い支援計画が作成されている
	内容	利用者の全体的な生活の姿をアセスメントシート、利用者台帳、本人・家族等との面談記録等の書式で把握している。利用者の通う(働く)場所、生活の幅を広げる遊び、洗濯・掃除など自分の生活を自分で作り上げ、普通の生活ができるように、法人内の関係機関と連携し支援している。個別性の高い支援計画になるよう心がけ、例えば、短期目標に使った食器は必ず洗うとし、達成課題に清潔保持、健康の維持、元気に働く、ホーム行事等への参加等および自分が欲しくて買いたいものは自由に買わせてほしい等の利用者の意向も取り込まれている。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	利用者は地域にとっても当たり前存在となっている。さらなる生まれ育った街で末永く生活できる支援を期待したい
	内容	利用者の多くは希望の場所に単独外出や移動支援、行動援護等を利用し行っている。ホームでは利用者が事故や事件に巻き込まれないよう、本人の興味ある話題には、地元近辺や最寄り駅を通る路線を中心に切符の手配や情報提供をしている。乗り換え等複数の交通手段がある場合は、移動支援を利用した外出等で非日常の体験を支援している。土日の昼食は自由昼食とし、利用者は近隣の飲食店や近くのコンビニで弁当を購入している。掃除・洗濯とともに簡単な調理に意欲をもつ方もいる。自立への架け橋に向けて、地域交流がさらに進んでいくことを期待したい。
2	タイトル	365日、24時間態勢でオンコール対応を行っているが、支援員の負担軽減に向けた取り組みを望みたい
	内容	ホームの管理者は友愛学園施設長が、サービス管理責任者には副施設長が兼務するなど、成人部と一体的な組織運営が行われている。すてっぷ小中尾は、4ユニット25人定員(現員22人)である。4ユニット中3ユニットは複数世話人ローテーション勤務で、他の1ユニットは世話人同居型である。入居者の高齢化がみられる一方、自傷行為など不安定な行動が目立つなどの状況がみられ、速やかな対応が求められている。現在、ホームでは365日、24時間態勢でのオンコール対応を行っているが、支援員の負担が大きい。負担軽減への取り組みを望みたい。
3	タイトル	
	内容	